

1 水と緑を生かした景観づくり

郡山市固有の財産である水と緑を生かした景観づくりに努めること。

【基準のねらい】

郡山市の景観の大きな特徴は、「水」と「緑」に代表される豊かな自然景観と歴史や文化を基盤として発展してきた活気ある「まち」の生活景観が共存していることです。周辺の自然景観や歴史・文化的景観をまもり、「水」と「緑」と「まち」の活気との調和に配慮しながら、安らぎと潤いを感じられる魅力あふれる景観づくりを推進していくことが重要です。



水と緑、賑わいが調和した郡山駅西口駅前広場の景観



安らぎと潤いを感じられる21世紀記念公園の景観



水景施設による魅力的な景観(フロンティア通り)



水と緑の豊かな藤田川の景観



美しい猪苗代湖と磐梯山の景観



緑豊かな美術館通りの景観

2 景域の景観特性に配慮

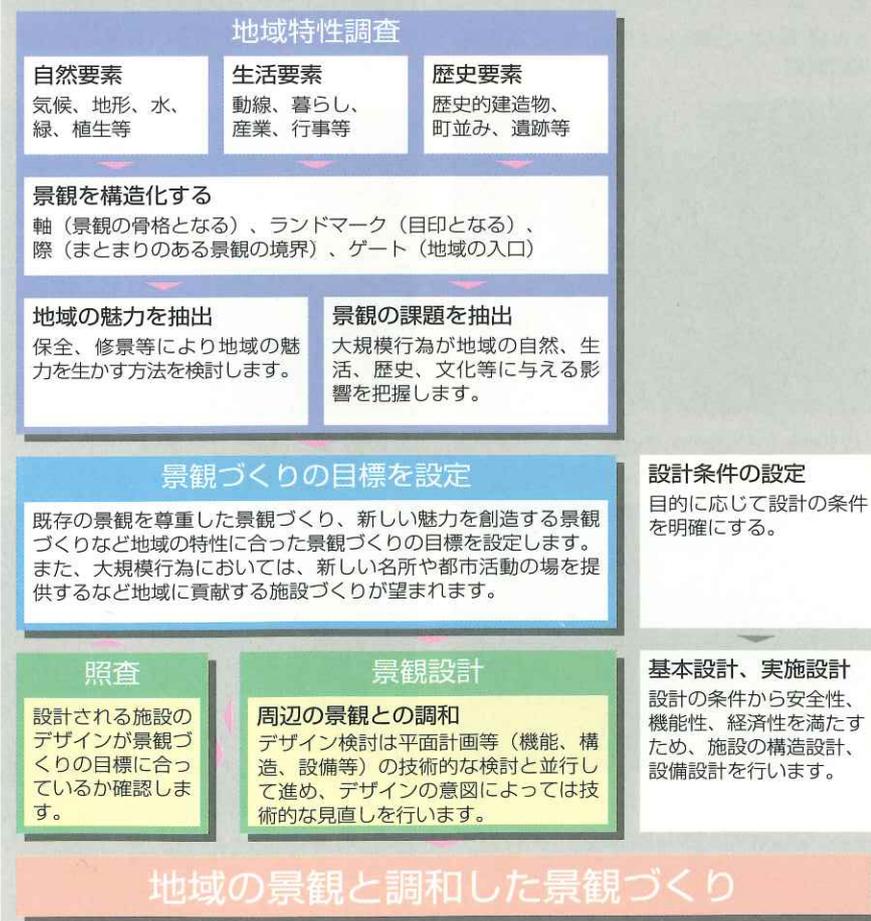
大規模行為の場所（以下「行為地」という。）及びその周辺の地域の自然、生活、歴史、文化等の特性を把握し、景観づくりの目標及び課題を明確にして、周辺の景観と調和した魅力ある景観づくりを推進するため、以下の点に配慮すること。

【基準のねらい】

周辺の景観と調和した魅力ある景観づくりを行うためには、まずその場所の特性をよく知ることから始まります。特に、地域の人々に親しまれている自然景観、生活景観、歴史・文化的景観は、大規模行為により阻害されることがないように配慮する必要があります。

周辺の地域における自然、生活、歴史、文化等の特性を把握することにより、まもるべき景観資源や新たに必要となる景観構成要素が明確になり、これらと調和した魅力的な景観を創出することができます。

景観づくりの流れ



【用語解説】

景観資源：地域の景観づくりに寄与している固有の資源、またはその可能性を持ったもの。

景観要素：山や川、道路、建造物といった景観を構成しているひとつひとつの要素。

郡山市では、景観づくりを推進する上で共通の課題がある地域を以下の4つの景域に分類しています。それぞれの景域の景観特性を踏え、大規模行為の景観づくりを推進していく必要があります。

【4つの景域】

(1) 中心市街地

「賑わい」と「水」・「緑」が調和し、歴史や文化が感じられ、活気あふれる景観づくり

(2) 周辺市街地

周田の自然景観と調和し、安らぎや潤いが感じられる景観づくり

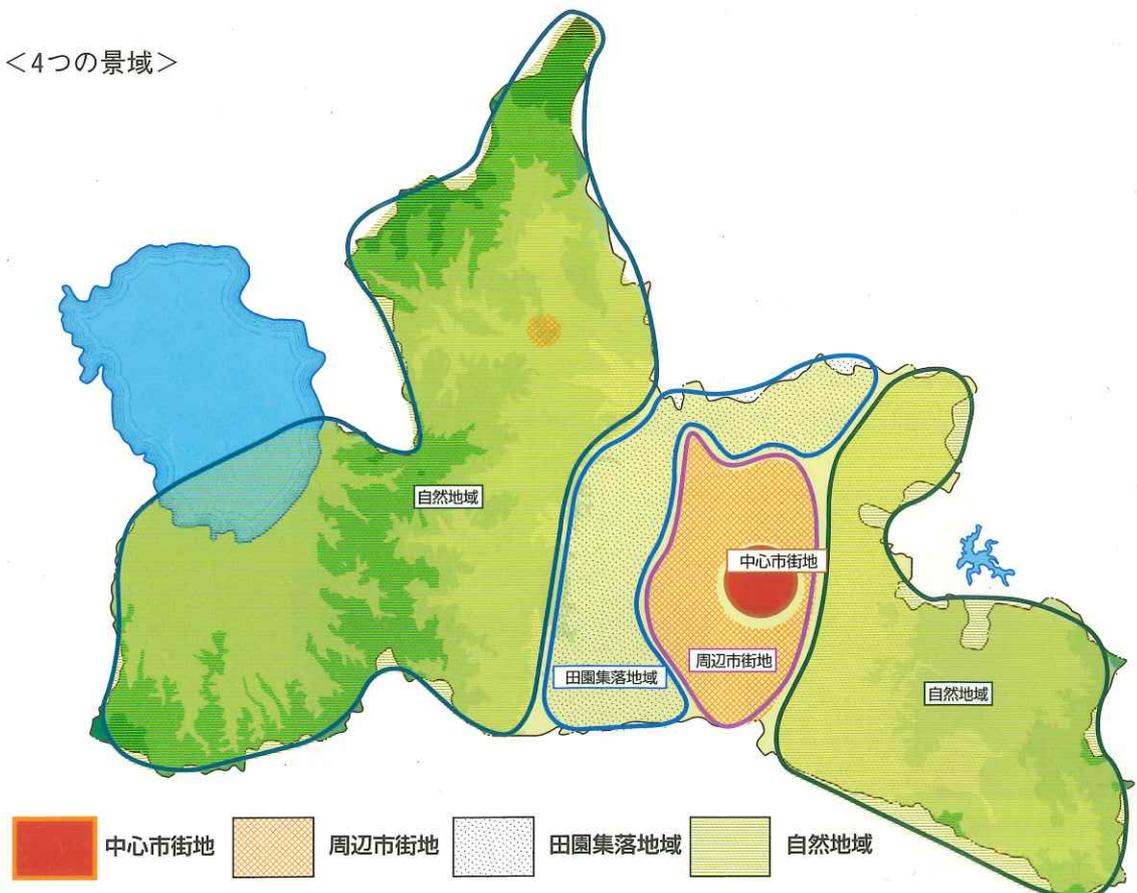
(3) 田園集落地域

広がりのある田園と周辺の山並みへの眺望を生かした魅力ある景観づくり

(4) 自然地域

美しい自然景観や歴史・文化的資源を生かした誇りと愛着のもてる景観づくり

<4つの景域>



(1) 中心市街地

賑わいと水・緑が調和し、歴史や文化が感じられ、活気あふれる市街地の景観づくりを行うこと。

【基準のねらい】

郡山市の特徴的な景観構成要素である「水と緑」に賑わいと歴史的、文化的な資源を調和させることにより、郡山市の個性と魅力ある景観を創出し、活気あふれる景観づくりを行います。



緑と調和したなかまち夢通りの景観



歴史や文化を感じるフロンティア通りの景観

(2) 周辺市街地

周辺の自然景観と調和し、安らぎと潤いが感じられ、魅力あふれる市街地の景観づくりを行うこと。

【基準のねらい】

周囲の山並みや田園景観を生かすことにより、緑豊かで安らぎと潤いの感じられる魅力あふれる市街地の景観づくりを行います。

緑豊かで美しい景観は、住み続けたい、美しさを維持していきたいという気持ちとなり、安らぎと潤いの感じられる魅力あふれる景観づくりを行います。



山並みへの眺望が開けた住宅地の景観



落ちついた景観が魅力的な住宅地

(3) 田園集落地域

生活感のある集落地の景観とその周囲に広がる田園景観を保全するとともに、これらの景観との調和を図り、周囲の山並みへの眺望に配慮した景観づくりを行うこと。

【基準のねらい】

田園地域に点在する集落地の景観とその周囲に広がる田園景観を保全します。また、集落地周辺に見られる屋敷林、斜面林及び農地との調和や田園地域の周囲に広がる山並みへの眺望に配慮した景観づくりを行います。



斜面林、集落地、田園が一体となった景観



田園地域と調和した屋敷林の景観

(4) 自然地域

周囲の山並み、湖沼、河川等の自然景観を保全し、また、それらへの眺望に配慮するとともに、周辺の景観と調和した景観づくりを行うこと。

【基準のねらい】

郡山市の景観の魅力は、磐梯山、安達太良山等の山並みや湖南七浜に代表される猪苗代湖の湖岸景観、阿武隈川、逢瀬川、笹原川、藤田川等の河川景観など水と緑が感じられる美しい自然景観が存在することです。

これらの美しい自然景観を保存し、また、これらへの眺望に配慮するとともに、周辺の景観と調和した景観づくりを行います。



安達太良山への雄大な眺望景観



阿武隈川の美しい景観

3 周辺住民との合意形成

大規模行為は、地域の景観に著しい影響を与えることから、説明会の開催等により周辺住民との合意形成に努めること。

【基準のねらい】

大規模行為は地域の景観に大きな影響を与えるため、説明会の開催等により周辺の住民にその内容を的確に周知する必要があります。周辺の住民との合意形成に努めることにより、地域に根ざした景観づくりを行うことができます。

【景観づくりの手法】

□フォトモンタージュ等の分りやすい方法で周知する

住民に大規模行為の周知を行う際には、フォトモンタージュや模型写真などで、行為後の景観がどうなるのかを分かりやすく説明する必要があります。

景観を検討する手法



技法

フォトモンタージュ
行為地周辺の写真に新たに建築する建築物等の絵（CG、透視図、模型写真等）を合成する。

特徴

背景が現実の風景であるため、実際のイメージに近い検討が可能である。
視点の変更は難しい。
コンピューターを使用すると色の変更などは比較的容易である。

形態を検討する手法



技法

透視図（パース）
図面ではわかりにくい完成後の状況を想定した図。現場写真やCGを下絵にして細部を描き加える場合もある。

特徴

建築物などの完成予想図として一般的に用いられる。一度作成してしまつて視点や形態、意匠などの変更が難しいため、設計が固まった段階で作画されることが多い。また、作画者の主観や技量でイメージが異なる場合がある。



模型

建築物の概略の形態だけを検討するものから完成した状況を示す細かな模型まで、様々なレベルがある。

模型では大まかな視点の設定による見え方の確認が容易にできる。また、見る角度を変えることにより視点の変更は可能であるが、鳥瞰的な視点になるため、実際の視点におけるイメージがつかみにくい場合がある。



CG（コンピューターグラフィックス）
3D-CAD等を使用して建築物や土木構造物の立体図を形成する。

色の検討などは画面上で容易に変更ができるため便利であるが、当初のデータ入力時に時間や費用がかかる。
周辺の地形等を入力し、アニメーション化することで、変化する視点の動きをシミュレーションすることができる。

【用語解説】

鳥瞰的：高い所から全体を見渡すように見ること。

シミュレーション：事前に最終的な状態を予測し、検討を行うこと。

4 他法令等との整合性

大規模行為の計画にあたっては、自然公園法（昭和32年法律第161号）、都市計画法（昭和43年法律第100号）等に基づく施策並びに福島県、郡山市及び郡山市に隣接する市町村の条例、要綱等に基づく景観の形成に関する施策との整合を図ること。

【基準のねらい】

都市計画法をはじめとして、さまざまな法令等で地域や地区が指定され、行為に対する規制や届出義務などが設定されています。行為地が、どのような地域に指定（複数の指定がされている場合があります。）されているのかを明確にし、法令による規制等の内容を確認するとともに、法令等に基づく施策との連携を考慮して大規模行為の計画を行う必要があります。

特に、優れた自然景観や歴史的、文化的な景観資源を有する地域では、厳しく規制されている場合が多く、注意する必要があります。

